

「水」はすこやかな森からの贈り物

洗足学園中学校

二年 中田 莉世

心地の良い音を立てながら川が流れる森は涼しくて、いいにおいがする。上を見上げると木々が優しい風にゆらされ、緑の葉の間から森の中に太陽の光が差している。地面はふかふかな土と落ち葉が重なり森全体を包んでいる。これは私がある企業のプロジェクトで白州の森の中を探検したときの一瞬を切り取った様子だ。伝わるだろうか。私はこのとき、確かにこの白州の森に惹き込まれた。初めて来た場所なのに心が落ち着き、爽やかな気持ちになった。そんなこの森の中でも特に存在感を放つ、「水」について担当者の方の話を聞き、初めてのことをたくさん知る中で普段自分が当たり前に使っている「水」に向き合うことで今まで感じることでできなかつた「水」というものの中に見えてくる道や歴史を感じることで

きた。

川が流れる透き通った水、生きるために絶対に必要な毎日飲む水、毎朝顔を洗うために使う水、私は今までこれらがすべて「水」でもどこか違うものに感じてしまっていた。毎日の生活に欠かせない存在である「水」を身近に感じ、考えることができないと水をなぜ大切にしなければいけないのか分からないまま過ごしていつてしまっているのではないか。

白州では「水」の中でも「天然水」というものに特に注目して学んだ。まず、天然水は雨が森の中に降り注ぎ大地へと浸透していくところから始まる。雨の水が地面へと染み込み、地中の奥深くに潜っていくにつれて、その水は地層のミネラルをしっかりと含み、約数十年という歳月をかけて「天然水」へと磨き上げられていく。

「天然水」が磨き上げられていくにはまず、スタートとなる雨が森の中へ降り注ぐというときに雨の水を受け止めるふかふかな土が必要となる。しかし、せつかくふかふかな土ができて山が崩れてしまつては意味がないため、土をしっかりと支えるネットの役割をする木々もとても重要になる。また、ふかふかな土がありその土を支

える植物も豊富になるということは、それらを食べる動物の種類も増えてくる。そのようにして森は豊かですこやかな森になっていくのだ。しかし私はここで「へーすごいなあ。」で終わらせてはいけなさと感じた。なぜならこのすこやかな森が今この瞬間まで続き自分たちの生活に欠かせない水とつながっているのは自然のとても不思議で、大きく強い力によるものだが、この状態がずっと自分たちの世代あるいはその次、またその次の世代まで何もせずに続くわけではないからだ。「水」を、すこやかな森を、いつまでも続けていくために今、人の力で木々を整備しふかかな土を守ったり、木がなくならないように生態系を崩さないようDNAまで調べて苗を作るなど努力がなされている。私は、変わり続ける環境に適応しいつまでも「水」があり続けるために、すこやかな森がずっとあり続け私が体験したように自然の心地良さ、力がいつまでも感じられるように、今されている努力を自分たちの世代でも続けながら進化した活動に挑むことが必要だと思う。

雨、ふかふかな土、強い木々、様々な動物たち、また自然の恵みを毎日の生活の中に取り込んでいる自分たち人

間。これらすべてがお互いに影響し合い、バランスを取り、これからもずっとすこやかな状態であり続けるために力を出し合う。そんな大きなこと、未来、またこれまで森が支え合って存在してきた歴史、すべてが詰まった「水」だからこそそのことを感じ、大切にしなければならぬ。私はまた今日も生きるために、未来でもずっと「水」を大切にしながら続ける思いを持ち、「水」を使っている。